

<近鉄道明寺線鉄道構造物群>

- ◎大和川橋梁
- ◎奈良街道陸橋
- ◎第2号溝橋
- ◎第1号溝橋

◇基本情報

- ・所在地：藤井寺市舟橋町～柏原市上市
- ・路線名：近鉄道明寺線
- ・建設年：1898年（明治31）
- ・形式：開床式単線上路プレートガーダー11連
- ・橋長：216.4m 大和川橋梁
- ・支間長：19.3m×11
- ・幅員：1.067m(軌間)



◇歴史

柏原・古市間を旧河陽鉄道が開業した際、建設された単線の橋梁及び橋台。大和川橋梁は、近鉄道明寺線が大和川を渡る全長約 200m の橋梁。主桁側面には「イギリスダッドリー」の「コクレーン社」が「加陽鉄道」のために製作したとの銘板があることから、開業時のものが今も使用され続けている事が分かる。近鉄全線の中でも最古の構造物と言うことになる。

当初は、JR 関西本線の前身の路線につなげて南河内地方との利便性を目的とした路線であったが、何度かの変遷を経て JR 関西本線と近鉄南大阪線をつなぐ支線として単線のまま残った。逆にこの事が複線化などによる撤去改築を免れ、明治時代の構造物が現在まで残る結果になった。

1937年(昭和12)それまでの鑄鉄製橋脚にコンクリート巻き立てをして補強した。1999年(平成11)には、大雨による大和川の増水で橋脚の根元がえぐられ、数本が傾いたため、柏原側から3本目の橋脚だけは造り直した。その元橋脚撤去の際には開業時の鉄製橋脚が現れ、開業時の構造が確認された。

大和川から柏原駅との間に道路を跨ぐ橋が架けられ、その橋台は煉瓦積みにより構築されている。



奈良街道陸橋



第2号溝橋



第1号溝橋



◇特徴

大和川橋梁：イギリス製のプレートガーダーが架けられた当時のまま現存している。

国道25号(奈良街道)陸橋：大和川橋梁と同じ建設当時の煉瓦積み(イギリス積み)橋台

第1号溝橋、第2号溝橋：これらも建設当時のもの。ただし、鉄道構造物では希有とされるフランス積みの煉瓦積み橋台を有する。

◇文化的価値

「河陽鉄道」は、すでに開業していた「大阪鉄道(関西本線の前身)」の柏原を接点として、大阪の中心部と南河内地方を結ぶ鉄道として創設された。

その後、路線の延伸、所有会社の変遷を経て、現在、民営鉄道としてわが国最長の営業路線を有する近鉄の路線の1つとなっている。その中で、明治期に開業した路線はこの路線のみである。ここには開業以来の構造物がそのまま残されており、イギリスからの輸入橋梁、煉瓦で構築された橋台がある。それには、鉄道構造物では希有とされる**フランス積み**が観られる。

平成30年度 土木学会選奨土木遺産に認定された。



大和川橋梁橋脚部



「土木学会選奨土木遺産」認定プレート

◇周辺環境

古市古墳群：世界文化遺産「百舌鳥・古市古墳群」大きさが応神天皇陵(425m)から方墳(10m未満)まで、バラエティに富み、被葬者の階層性をうかがわせる。

◇参考文献

- ・「Web 風土記ふじいでら」([南大阪線・道明寺線・長野線の歴史 \(www.ne.jp\)](http://www.ne.jp))
- ・「近畿日本鉄道・道明寺線」([近畿日本鉄道 | 道明寺線 \(kintetsu.jp\)](http://kintetsu.jp))
- ・文化財基礎調査概報－近代化遺産－ 2000.3 柏原市教育委員会
- ・考古学ジャーナル (569) (2008年) 「JR 関西本線と近鉄道明寺線の鉄道煉瓦構造物」